

18. 抗癌剤の体内分布

宮田 伸樹 佐久間貞行 綾川 良雄
松山 孝治 小池 皓弑 近藤 東臣
横井 武

(名古屋市立大学 放射線科)

柴田 靖彦 藤田 卓造 加藤 英雄

(R I 研)

今回は BLM が体内でどのような分布を示すかを検討した。 ^{99m}Tc -BLM と ^{57}Co -BLM とを用いた。

^{99m}Tc -BLM 動注後の分布をみると、膀胱内に集積がみられ、尿中の ^{99m}Tc -BLM によると考えられる。骨盤内臓器の分布を ^{99m}Tc -BLM でしらべることは不可能であることが分った。肝はコロイドによるヘパトグラムに似た取り込みを示した。また、頸部にも取り込みが認められた。

^{57}Co -BLM では、膀胱内の集積は ^{99m}Tc -BLM と同様であったが、頸部及び肝での集積はなかった。

ラベルした核種の違いにより体内分布に差があるのは核種と BLM との結合が分離した可能性があると考えられさらに検討を要する。

抗癌剤投与後の体内分布を検討するのは、治療上有効な投与方法を解明する目的であるが、これは、診断的に悪性腫瘍の陽性描画を得ることと同一になると考えられる。症例を供覧した。

質問 木戸長一郎

(愛知県がんセンター病院 放射線診断部)

^{99m}Tc -BLM を口唇癌および上顎癌の新鮮例について行なったが、2例はまったく取り込まれなかった。貴科でもこのようなことがあるかどうか。

回答 宮田 伸樹

(名古屋市立大学 放射線科)

私どもも同様の経験があります。3例中1例は陰性で描画不能でした。

質問 鈴木 豊(金沢大学 核医学科)

^{99m}Tc プレオマイシンの肝への集積メカニズムをどのように考えますか。

回答 宮田 伸樹

(名古屋市立大学 放射線科)

Hepatogram の curve は colloid を用いたそれによく似ていたので、BLM のみの集積以外の mechanism を考える必要があります。

19. 乳腺の腫瘍シンチ例

一肝臓取り込みの影響をいかにして
避けるか—

滝川 巖 ○堀 香苗

(静岡済生会病院 放射線科)

^{169}Yb -citrate を用いて乳腺腫瘍のシンチカメラによる撮像を試みた。

前回の本学会に報告せるごとく、シンチカメラを使用する際はスキャナーと異なり低エネルギー部のスペクトルを利用する方が比較的高エネルギー部を利用するよりカウント数で遥かに有利である。しかし低エネルギー部は透過力の点で明らかに劣ることは勿論である。

しかしこのことは乳腺のごとき表在性の組織を対象とする際はかえって有利となり、肝臓のごときより深部にある臓器からの情報には不利となる。

^{169}Yb -citrate は通常肝臓に大量に取り込まれ、それに近い組織からの情報には非常な妨げとなる。

われわれは乳腺腫瘍の検査に際し、63 KeV の低エネルギースペクトルを利用することと、切線視するとき方向から撮像することにより乳腺への異常集積の明瞭な像を得た。

なおこれまでの検査例はまだ4例の少数であるが、異常集積陽性3例中2例は腺がん1例は慢性乳腺炎、異常集積陰性の1例は腺がんであった。

追加 金子 昌生

(名古屋大学分院 放射線科)

今のコリメーターはダイバーシングコリメーターを使用されているように思いましたが、ピーホ